

研究室紹介

順天堂大学大学院医学研究科
再生医学 主任教授

田中 里佳

私は、医学部学生時代より失われた組織を再建・再生させる医療に興味を持ち、医師として外科的に組織再建を行える形成外科学へ、また研究者として幹細胞による再生医療が可能となる再生医学の道へと進んだ。組織を再生させるために血液を供給する血管は不可欠であり、血流が無い組織は生きられない。この理念のもと、組織を生かすために最も重要な血管再生について学ぶため、臨床研修を修了後すぐに大学院博士課程へ進学し、血管幹細胞 (Endothelial progenitor cells; EPCs) の発見者である浅原孝之教授の指導下で血管再生医学の研究に従事した。同時期に、形成外科医として最も組織再生が困難な糖尿病性足潰瘍の治療に携わり、本疾患における血管再生治療の重要性を痛感した。その経験を基に糖尿病患者の血管幹細胞の生物学的特性解明の研究に従事し、将来多くの患者を救える血管再生治療の開発を目指した。

平成23年に順天堂大学医学部形成外科学講座の助教に就任し、内閣府助成：最先端次世代研究支援プログラム「糖尿病性潰瘍に対するハイブリッド型生体外培養増幅細胞移植による新しい血管再生治療の開発（総額154,700千円）」の採択を機に主任研究者として研究室を独立した。以降、血管再生治療の開発を中心に様々な組織再生の基礎研究と応用研究を実施している。平成27～30年AMED再生医療実用化研究事業の支援によりMNC-QQ細胞治療における第I相臨床研究試験名「難治性四肢潰瘍患者を対象とした自己末梢血単核球生体外培養増幅細胞移植による血管・組織再生治療に関する第I相試験臨床研究」UMIN000016665を実施した。本細胞実用化のため平成30年に順天堂発ベンチャーである株式会社リエイルを設立し、MNC-QQ細胞を医



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会
2023.06
No.135

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

薬品グレードに改良したRE-O1細胞を開発。現在、AMED再生医療実用化事業の支援によりバージャー病と膠原病による微小血管障害による難治性虚血性潰瘍に対するRE-O1細胞移植の安全性を評価する医師主導治験を実施している。私が令和2年に主任教授として就任した順天堂大学医学研究科再生医学の研究室は血管再生治療の開発を中心に創傷治癒、皮膚再生、毛髪再生、乳房/脂肪再生、神経再生など様々な分野の基礎研究と応用研究を実施している。現在、多くの大学院生と研究員（当該研究室：博士研究員1名、研究員1名、研究補助員6名、事務員3名、現在までに指導した大学院生11名）が活発に研究を行い、多くの組織再生の実用化に寄与し医学の発展を通してより良い社会の構築に貢献したいと考えている。

研究奨励賞受賞者2023 WHS International Sessionで発表

済生会横浜市東部病院病理診断センター
一般社団法人日本創傷治癒学会 名誉会員

赤坂 喜清

今年のWHS Meeting (Washington D.C.)では研究奨励賞受賞者の荒木淳先生(静岡県立静岡がんセンター再建・形成外科)と梅原敬弘先生(産業医科大学医学部法医学)が研究成果を発表した。この International Session は4年前の WHS Meeting で開催される予定だったが、全世界で猛威を奮った Covid-19により WHS Meeting自体の中止や米国への渡航困難な状況から延期されてきた。日米で異なる水際対策の手続きに苦労しながら、吉田理事長、荒木先生、梅原先生と私は Washington D.C. を訪れ3年間のブランクを経て International Sessionに臨むことができた。

このSessionは初日のゴールデンタイムに開催された。発表前に突然Eriksson先生が壇上に駆け寄り、遠路はるばる来たことに感謝の意を述べてくれて大変嬉しかった。両先生の発表は英語特有の言い回しに振り回されず限られた時間内で簡潔に行われた。発表後「これで終わった」と呟いたのを聞いて、彼らのSessionに対する強い思い入れが感じられた。事前のアナウンスにより会場には熱心な先生が集まり幅広い質問を受けた。荒木先生には早急にヒト臨床応用すべきとのコメントがあり、米国のトランスレーショナルリサーチの迅速な対応に驚いた。梅原先生の発表には学会長Liechty先生から分子動態の突っ込んだ質問があった。多数の質問を受けたのは、臓器あるいは分子レベルの異なる分野の研究発表であったので幅広い先生の興味を引いたと思っている。両先生の選考にご苦労された日本創傷治癒学会の選考委員に大変感謝したい。なお冒頭には日本創傷治癒学会の紹介の後



会場でのスナップ：
左から梅原先生、赤坂、荒木先生、吉田理事長



冒頭でのJSWHの紹介

に、サプライズとして私に対する感謝状贈呈があり我ながら大変感激した。

夕方からポトマック川の岸辺の特設会場で Social Event が行われた。好評な発表だったため多くの先生から声をかけてもらい、初参加の吉田理事長も多くの先生と交流を深めた。米国在住の浦尾紀文先生 (Upstate Univ.) による Washington D.C.のドライブが企画され、ホワイトハウスや国会議事堂を直接見ることができ、学会ながらも旅行気分を少し味わうことができた。私が最初に WHS meeting 参加してから10年が経過した。今回はWHSとの友好的関係の発展のみならず、直接対話により今後の創傷治癒研究の方向性やJSWHの位置付けを考えるのに重要な機会であったことを確認してWashington D.C.を後にした。



荒木先生の発表



梅原先生の発表



感謝状贈呈

漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。
 [医療関係者の皆様] 0120-329-970 [患者様・一般のお客様] 0120-329-930
 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く)